

通信

在瑞西國首都ベルンの南川欣司君より編輯主幹に宛てたる通信(四月十六日發)を讀者の參考ともと思ひ左に再録致します。

拜啓前文御免被下度候、扱て本日^{を以て}小生も愈々正式に當大學に入學致し候、昨今に至りやうやく入學竝に其他に關し了解出來申候間左に其要點を御通知申上候間當大學遊學御希望の方々も有之候節可然御注意被下度候。

「一箇年を分ちて二「ゼメスター」となし(四月十五日より十月十五日迄を夏「ゼメスター」、十月十五日より四月までを冬「ゼメスター」とす)各學期のはじめに於て留學生の入學を受付く(即ち夏「ゼメスター」は四月十五日より五月十五日迄の間に入學を受付く、冬「ゼメスター」は十月十五日より十一月十五日までの間に入學を受付く)而して留學生にして夏冬兩「ゼメスター」の講義を聽きたるものに後の「ゼメスター」の中頃にドクトル試験を行ふ、この「ドクトルエキザメ」に合格し且ドクトル論文の教授會を通過したるものにドクトル免狀を與ふるを以て原則とす、尙ほドクトル試験の受験課目は臨牀二科、基礎一科にて都合三科目各自好む處のものを申出で受驗し得るも基礎にては細菌、生理、臨牀にては小兒科は受験課目にあらず」

右は入學受験に關する表面の規則要點に有之候へども之には少々註釋を加へざるべからざる點有之候、即ち入學人員に別に制限無之候へども「ドクトルアルバイト」をなす爲に任意教室に入るべき事に關しては各教室に一定の人員限度有之、細菌教室には八名、婦人科三名、藥物二名、生理約五名位、眼科二名、耳鼻二名、大凡全部にて三十名足らずの「ブラツ」より無之、従つてたとへ二箇學期の間聽講しても「ドクトルアルバイト」が出来ぬ爲卒業が遅れるといふ事は自然有り得る事に有之候、従つて昨今の如く留學生の輻輳せる今日にてはこの各教室の「ブラツ」を得る爲に日本人間に盛に陰謀術策が行はれたるものにて其間非常の弊害有之候爲遂に先月末日本人會を組織して今後各教室の「ブラツ」を得る事はベルン到着順にする事の申合せをなしたる次第に候、幸ひ小生等の來りたる時は丁度人員も多からず幸ひ藥

物に「ブラッツ」が明き居り候爲この方に入り簡単に「アルバイト」をすまし、後婦人科の方に轉じ候次第に御座候、然れどもベルン到着が一月初めにて入學期にあらず「ドクトルアルバイト」をすまし乍ら入學は本日迄出來ざりしと云ふが如き異様の現象を見たる次第に候、從來當校卒業生にして入學期を經過しても頼めば何とかなる、又「ブラッツ」の如きも教授に運動すれば何とかなると内地にて傳へ居る人も有之候様なれどもそれは昔の事にて只今にては上記小生の例の如く不可能の事に御座候、尙ほ内科とか病理とか皮膚科、解剖などは從來より日本人の研究生を採用致さず(併し「ドクトルアルバイト」以外の研究なれば採用せぬ事もなからん)大抵は藥物、細菌、眼科、婦人科、生理、耳鼻にて仕事させられ居り候。

尙ほ公使館にて公使の話によれば、大學にて更に學期を増加して一箇年半の在學者にドクトル試験を受験せしむる資格を與へんとの議有之候由にて、一方未だ「ブラッツ」を得ずして順番の來るのを待ち居る日本人が十名以上も有之今後益々この地の「ドクトルアルバイト」も厄介ならんと存じ候まゝ萬一ドクトル希望の方はなるべく早く御出での方得策ならんと存じ候、但し「ドクトルアルバイト」にあらざる「アルバイト」を希望する人ならば「ブラッツ」の融通は何とかして教授がつけて呉れる模様候、猶ほ何より大切な事は語學に有之讀む事も大切なれども話す事が尙更必要に候、語學の達者な者が牛耳をとる事が出來申し候、故に滯歐豫定の如きも先づ一箇年が普通なれどもこの頃の様に留學生が多くなつては各教室の「ブラッツ」の都合により一箇年半位はかゝつてもよい位の豫定にて渡歐せらるゝ事も必要かと存じ候
(以下略)